

○ 防除方法・・・害虫(登録薬剤)

登録農薬名	RACコード	対象害虫	同時防除が期待できる害虫	希釈倍数 使用量	水10ℓ当り 薬剤量	使用時期	使用回数	備考	
A	ガゼット粒剤(劇)	コナガ	-	9kg/10a	/	定植時	1回	株元散布(茎葉、根に薬剤が直接ふれないよう注意する。)	
	ジェイエース粒剤	アブラムシ類	アザミウマ類	2g/株 9kg/10a		発生初期	5回以内	株元散布(茎葉、根に薬剤が直接ふれないよう注意する。)	
B	トアロー水和剤CT	コナガ	-	1,000倍	10g	発生初期	—	BT(死菌)	
	バシレックス水和剤	コナガ	-	1,000倍	10g	発生初期	—	BT(生菌)	
C	オルトラン水和剤	コナガ、ハイマダラノメイガ アオムシ、ヨトウムシ類、アブラムシ類	アザミウマ類	1,000倍	10g	発生初期	5回以内	ジェイエース粒剤と合わせて5回以内	
D	ノーモルト乳剤	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ類	-	2,000倍	5cc	発生初期	2回以内		
E	アディオソ乳剤	アブラムシ類、ヨトウムシ類、ハマキムシ類	カメムシ類、※(コナガ、ハイマダラノメイガ)	2,000倍	5cc	発生初期	6回以内	ヒレスロイド剤は、蚕・魚類に対する毒性が特に強いので、桑園・養魚池・河川の近くでは使用しない。	
その他	コテツフロアブル(劇)	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ類、ハダニ類	ミカンキイロアザミウマ	2,000倍	5cc	発生初期	2回以内		
	フェニックス顆粒水和剤	オオタバコガ、ハスモンヨトウ	※(コナガ、ハイマダラノメイガ)	2,000倍	5g	発生初期	4回以内		
	アフアーム乳剤	I:6	オオタバコガ、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類、コナガ	※(アオムシ、ハイマダラノメイガ)	1,000倍	10cc	発生初期	5回以内	
			アザミウマ類	-	2,000倍	5cc			
	アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	ミカンキイロアザミウマ	-	1,000倍	10g	発生初期	6回以内	
			ハモグリバエ類	※(アブラムシ類)	2,000倍	5g			
	スタークル顆粒水溶剤	I:4A	アブラムシ類	コナジラミ類	2,000倍	5g	発生初期	5回以内	希釈倍数1000倍、灌注1ℓ/1㎡でハモグリバエ類にも適用あり
	モスピラン水溶剤(劇)		アザミウマ類、アブラムシ類	※(コナガ、アオムシ)	2,000倍	5g	発生初期	5回以内	
ディアナSC	I:5	ハモグリバエ類、クロバネキノコバエ類	アザミウマ類、オオタバコガ、コナジラミ類、イラクサギンウバ ※(アオムシ、ハイマダラノメイガ、コナガ、ハモグリバエ類)	2,500倍	4cc	発生初期	2回以内		

※()内、他品目での適用あり

害虫(コナガ)防除薬剤ローテーション体系

育苗期	本畑栽培期	備考
A→B→C	(A) → (B+C) → (B+D) → (B+E)	コナガ多いとき
	(A) → (B) → (C) → (D) → (E)	コナガ少ないとき

体系防除で薬剤抵抗性の発現を抑える。ローテーション剤の効果がない場合は、一覧表の「その他」の薬剤を使用。コナガ防除は、初期の徹底防除がカギ！虫を発見したらすぐ防除を行うこと。

薬剤散布量の目安(100坪当たり)

生育ステージ	育苗～定植初期	草丈15cm前後	草丈30cm前後	草丈60cm前後	備考
散布量の目安	約15～20リットル	約20～30リットル	約30～40リットル	約40～50リットル	農薬散布は、株全体に薬液が届くように左記の薬量を参考に、丁寧に均一に散布する。

※薬害が発生したらすぐに、微量要素入りの液肥を1000倍に薄め葉面散布する。液肥の葉面散布量は、葉の表面にうっすらとぬる程度。(農薬散布量の1/2程度の量で十分です。)

○ 植物成長調整剤

登録農薬名	RACコード	使用目的	使用時期	希釈倍数	散布液量	水10ℓ当り 薬剤量	使用回数	備考
ビビフルフロアブル	(矮化剤)	開花促進	葉数10～14枚時とその7～10日後	1,000倍	100ℓ/10a	10cc	2回	ハイブリッド等には使用しない(奇形花率が高くなる為) また他品種も高温時に散布すると奇形花率が高まる

○ 防除方法・・・病害(登録薬剤)

登録農薬名	RACコード	対象病害	希釈倍数 使用量	水10ℓ当り 薬剤量	使用時期	使用回数	備考
ガスタード微粒剤(劇)	I:8F、F:MO3、H:Z	萎凋病、苗腐病、苗立枯病	30kg/10a	-	は種又は植付前	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
クロルピクリン錠剤(劇)	I:8B	萎凋病、立枯病	1㎡当り10錠	-	-	2回以内	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
クロールピクリン(劇)	I:8B	萎凋病、立枯病、半身萎凋病	床土・堆肥>1穴当り3～5ml <圃場>1穴当り2～3ml	-	-	2回以内	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
オーソサイド水和剤80	F:MO4	炭疽病、苗腐病、苗立枯病	600倍	16.6g	—	8回以内	散布
リゾレックス粉剤	F:14	苗立枯病	-	50kg/10a	定植前	1回	土壌混和
リゾレックス水和剤	F:14	苗立枯病	500倍	20g	生育期	ゾレックス粉剤と合わせて5回以内	土壌かん注(3ℓ/㎡)
ポリベリン水和剤	F:MO7、F:19	菌核病、灰色かび病	1,000倍	10g	発病初期	ポリオキシソル水溶剤と合わせて8回以内	
ポリオキシソルAL水溶剤	F:19	黒斑病、灰色かび病	2,500倍	4g	発病初期	ポリベリン水和剤と合わせて8回以内	
ポトキラー水和剤	F:BM2	灰色かび病	10～15g/10a/日	-	発病前～発病初期	-	ダクト内投入
トップジンM水和剤	F:1	菌核病	1,500倍	6.6g	—	5回以内	
アフエツフロアブル	F:7	灰色かび病	2,000倍	5cc	発病初期	3回以内	